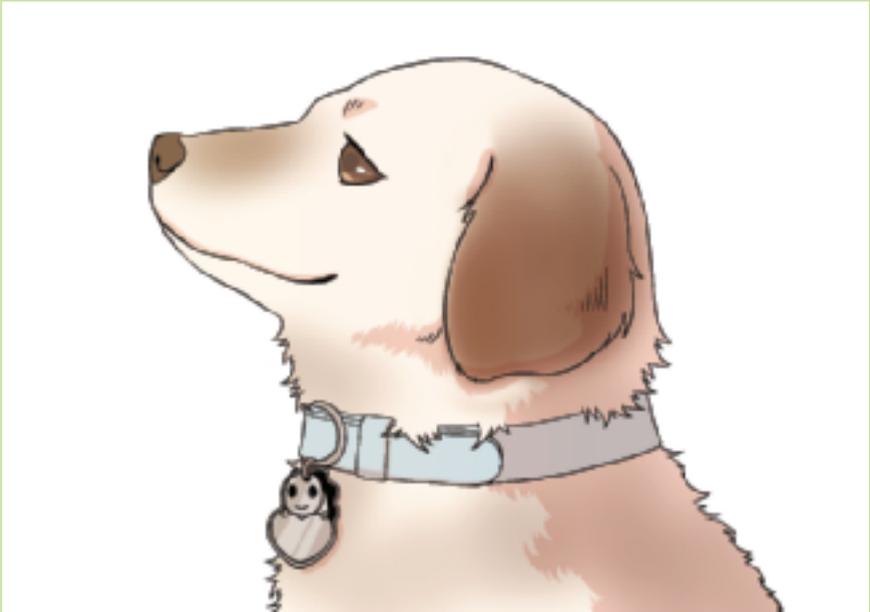


# 動物通信

## 私たちの周りで生活する動物たち



杉並区動物シリーズ 平成28年度版

はじめに .....	1
私たちの身近で働く犬たち .....	3
特別な場所で働く犬たち .....	9
アニマルセラピー .....	11
野生動物 .....	13
最後まで責任をもって .....	14

## はじめに

私たちの周りには様々な動物がいます。最初に思いつく動物は家で飼っているペット達でしょう。ペットは家族の一員として共に過ごしながら私たちの心を癒<sup>いや</sup>してくれます。また、ペットのほかにも、私たちの生活を助けてくれるワーキングアニマルと呼ばれる動物がいます。古くからは猟<sup>りょう</sup>犬、牧羊<sup>ぼくよう</sup>犬、そりを引く犬、農耕<sup>のうこう</sup>用の牛馬たち、伝書鳩<sup>でんしよぼと</sup>などがいますし、近年、私たちのために働いてくれる動物たちもさらに増えています。これらの動物は人間と共存<sup>きょうぞん</sup>して暮らす動物で、人が責任をもって最後まで飼育管理する必要がある動物です。

その他にも、タヌキ、野鳥、ヘビ、カエルなどを含む<sup>みく</sup>多くの野生動物がいます。野生動物は自然の中で人間の手を借りず、自分たちだけで生活をしており、人間が餌<sup>えき</sup>を与えたり飼育したりしてはいけません。

それぞれの動物について私たちとのつながりを理解し、共に生きることを考えてみましょう。



# 私たちの身近で働く犬たち

## ● 盲導犬

私たちは道を当たり前のように歩いていますが、実際にはすれ違<sup>ちが</sup>う人がいたり、電柱や段差<sup>たん さ</sup>があったり、注意しなければいけないことがたくさんあります。

盲導犬<sup>もう どう けん</sup>は、目の見えない人、見えにくい人が行きたいときに行きたい場所へ出かけられるように、障害物<sup>しょうがいぶつ</sup>を避けたり、段差<sup>たん さ</sup>や曲がり角を教えたり、安全に歩くためのお手伝いをします。

盲導犬<sup>もう どう けん</sup>が体に着けている白い胴輪<sup>どうわ</sup>をハーネスといいます。盲導犬<sup>もう どう けん</sup>は使用者の左側を道に沿<sup>そ</sup>ってゆっくり歩くことが基本となっています。そして、道に変化があるとそれぞれの状態に対応した特別な動作をします。その動作がハーネスを通して人に伝わることで、使用者が安全に歩くことができるのです。また、ハーネスには「盲導犬<sup>もう どう けん</sup>」と書かれています。

盲導犬<sup>もう どう けん</sup>は、カーナビゲーションのように目的地まで連れて行ってくれると思う人がいるかもしれませんが、実際は人の頭の中で目的地までの地図をイメージし、盲導犬<sup>もう どう けん</sup>に指示を出しながら歩きます。お互<sup>たが</sup>いにコミュニケーションをとることで安全に歩くことができるのです。



## ● 聴導犬<sup>ちやうどうけん</sup>

私たちの周りには、目覚まし時計やインターホンなど、音でいろいろなことを教えてくれるものがたくさんあります。聴導犬<sup>ちやうどうけん</sup>は、耳が聞こえない人、聞こえにくい人の代わりにその音を聞き分け、合図で教えてくれるのです。

寝<sup>ね</sup>ている最中に警報音<sup>けいほうおん</sup>が鳴ったときは、使用者を起こして危険<sup>きけん</sup>を知らせてくれますし、子供の泣き声や電話が鳴ったときや、インターホンが鳴ったときは、その場所まで導いてくれます。また、外出しているときも、自転車や自動車の警笛音<sup>けいてきおん</sup>が鳴れば、使用者に教えて周囲の注意<sup>うなが</sup>を促します。非常時に助けを呼びたいときには代わりに他の人を呼び<sup>よ</sup>びにも行きます。

これらのことがスムーズに行われることで、使用者は音が聞こえないことからくる不安をなくすことができ、快適で安全な生活を送れるようになります。

聴導犬<sup>ちやうどうけん</sup>は他の犬と明らかな区別ができるように、「聴導犬<sup>ちやうどうけん</sup>」と書かれた黄色い服を着ています。



## ● 介助犬

体に不自由なところがあり、一人では生活をするのが難しい人の手助けをしてくれるのが介助犬です。車いすを引いたり、人が起き上がったり、車いすへ移ったりする際の支えになります。そのため、大型犬でなくてはなりません。また、ドアを開閉する、エレベーターのスイッチを押す、電話やリモコンを持ってくる、ペットボトルのふたを開ける、落としたものを拾う、衣服を脱ぐ手助けをするなど、まさに体の一部のように助けてくれます。このような介助犬の助けにより、使用者は、他の人に頼らず自立した生活を送ることができるようになります。

介助犬は服を着ていたり、荷物を載せていたり、車いすを引くための胴輪をつけていることもあります。それらには大きく「介助犬」と書いてあります。

## ほ じょけん 補助犬

盲導犬、聴導犬、介助犬のことを補助犬とも言います。補助犬を必要とする人は多く、その働きにより、補助犬は社会の大切な一部となっています。補助犬を同伴して公共施設や公共交通機関をどこでも利用できます。

外で見かけたときは、仕事をしている最中なので静かにして邪魔にならないようにしましょう。もし困っているようなら、使用者に声をかけて助けてあげてください。



## 特別な場所で働く犬たち

### ● 警察犬

犬は人間と比べて数千倍ものにおいを感じ取る能力を持っています。この能力を使うことで犯人や行方不明者、持ち物などの特定のおいをかぎ分け、探することができます。また、犯人のおいをもとに追跡したり、犯人を逃がさないために走って追いかけたり、捕まえるための協力をします。さらに、パトロール中には、においや音を調べ、周りに異常がないかを確認します。

人よりも優れた感覚や運動能力で警察官を助けてくれるのです。

### ● 災害救助犬

地震や雪山なだれなどでがれきの中に閉じ込められた人や、ハイキング、山歩きなどで行方不明になった人など、色々な機械を使っても人間では探することが難しい行方不明者の、わずかなにおいを感じ見つけ出してくれます。行方不明者を発見すると、その場所で大きな声でほえたり、引っかいたりして知らせてくれます。

### ● 麻薬探知犬

空港や港、国際郵便局など荷物や人が多く出入りする場所で、麻薬というおそろしい薬が日本に持ち込まれないために、それを探し出す仕事をしています。多くの荷物の中から探したり、人が隠し持っているのを教えてくれたりします。他にも、火薬や特定の食べ物などのおいをかぎ分ける訓練をしている犬もいて、私たちの安全を守ってくれています。



## アニマルセラピー

動物と触れ合うことで私たちには色々な変化が起きます。かわいいと思うだけでリラックスできますし、また触りたいと思うだけで元気になります。動物に話しかけることでストレスが減ったり、他の人とも話しやすくなったりします。このように、動物との触れ合いで人の心を癒す効果が期待されているものをアニマルセラピーと言います。

主に、病院や老人ホーム、小学校などを訪問し、多くの人に安らぎを与える活動を行っています。イヌを使うことが多いのですが、おとなしいネコやウサギ、サルを使うこともあります。

中には馬を使うこともあります。その大きな背中に乗ることでリズム感、バランス感覚が養われ、大きな動物を操ることで自信や勇気も身につきます。

また、イルカと一緒に泳ぐ方法もあります。イルカはとても優しい動物で、人とも一緒に泳いでくれます。普段接することのできないイルカと触れ合うことで喜び、前向きな気持ちになれます。そして、水の中での行動なので、楽しみながら体全体を動かすことで、体を鍛えることができるという効果もあります。



# 野生動物

人間のいない中でうまくバランスをとりながら生活をしている動物のこトです。しかし、人間が生活範囲を<sup>せい かつ はん い</sup>広げ、野生動物との生活範囲が重なるようになった結果、野生動物がゴミや畑の農作物を荒らしたり、人に怪我をさせたりするようになりました。そのため、出来るだけ生活範囲が重ならないように<sup>あ</sup>住み分けるとい<sup>け が</sup>う考<sup>せい かつ はん い</sup>え方が必要と<sup>い</sup>言<sup>い</sup>われています。この考<sup>い</sup>え方を共生と言<sup>い</sup>います。

## ●エサをあげないで

人間と野生動物が共生するためには、人間が野生動物にエサを与えないことが重要<sup>じ</sup>です。エサを与えることで動物が楽にエサを得ることに慣<sup>な</sup>れてしま<sup>い</sup>ったり、人間を怖<sup>こわ</sup>がらなくな<sup>り</sup>たりします。その結果、家屋に侵入するなどトラブルも増<sup>え</sup>てしま<sup>い</sup>ます。

## ●落ちて<sup>い</sup>るひな鳥<sup>について</sup>

春から夏にかけてスズメやツバメ、ムクドリが子育<sup>こ</sup>てを<sup>し</sup>ます。ひな鳥<sup>たち</sup>は親鳥<sup>から</sup>から餌<sup>を</sup>もら<sup>い</sup>、飛<sup>と</sup>び方<sup>や</sup>餌<sup>の</sup>取<sup>り</sup>方<sup>を</sup>教<sup>わ</sup>り、成<sup>ち</sup>長<sup>し</sup>てい<sup>き</sup>ます。しかし、飛<sup>と</sup>び方<sup>が</sup>わ<sup>か</sup>ら<sup>な</sup>か<sup>つ</sup>たり、少<sup>し</sup>し休<sup>き</sup>憩<sup>けい</sup>したり<sup>し</sup>て<sup>い</sup>る<sup>間</sup>に、人<sup>が</sup>誤<sup>あや</sup>ま<sup>ま</sup>して保<sup>ほ</sup>護<sup>し</sup>て<sup>し</sup>ま<sup>う</sup>こ<sup>と</sup>が<sup>あ</sup>り<sup>ま</sup>す。本<sup>ほん</sup>当<sup>た</sup>は親<sup>おや</sup>鳥<sup>が</sup>が<sup>す</sup>ぐ<sup>近</sup>く<sup>で</sup>見<sup>み</sup>守<sup>も</sup>っ<sup>て</sup>い<sup>る</sup>の<sup>に</sup>…。こ<sup>れ</sup>は<sup>ひ</sup>な<sup>鳥</sup>の<sup>誘</sup>拐<sup>とも</sup>呼<sup>わ</sup>ば<sup>れ</sup>て<sup>い</sup>ま<sup>す</sup>。

野生動物の生活はそれぞれの動物が独自に切<sup>き</sup>り開<sup>き</sup>き、築<sup>た</sup>いてい<sup>く</sup>も<sup>の</sup>で<sup>す</sup>。ぜ<sup>ひ</sup>と<sup>も</sup>、ひ<sup>な</sup>鳥<sup>た</sup>ち<sup>の</sup>訓<sup>れん</sup>練<sup>を</sup>温<sup>か</sup>く見<sup>み</sup>守<sup>も</sup>っ<sup>て</sup>あ<sup>げ</sup>て<sup>く</sup>だ<sup>さ</sup>い。も<sup>し</sup>保<sup>ほ</sup>護<sup>し</sup>て<sup>し</sup>ま<sup>つ</sup>て<sup>も</sup>、す<sup>ぐ</sup>に元<sup>もと</sup>の場<sup>ば</sup>所<sup>に</sup>戻<sup>かえ</sup>り<sup>て</sup>あ<sup>げ</sup>ま<sup>し</sup>ょう。例<sup>れ</sup>え親<sup>おや</sup>鳥<sup>が</sup>が<sup>近</sup>く<sup>で</sup>見<sup>み</sup>つ<sup>か</sup>ら<sup>な</sup>く<sup>て</sup>も、ど<sup>こ</sup>か<sup>に</sup>隠<sup>かく</sup>れて見<sup>み</sup>守<sup>も</sup>っ<sup>て</sup>い<sup>る</sup>こ<sup>と</sup>が<sup>多</sup>い<sup>で</sup>す。

## 最後まで責任をもって

近年、ペットとして飼えなくなった動物を、こっそり池や川、公園や山などに放してしまう人が増えています。放された動物はそこで生活するうちに仲間が増え、今までそこに住んでいた動物たちの保ってきたバランスを壊してしまいます。なかには元々住んでいた日本古来の動物が、新しく入ってきた外国産の動物たちに居場所を奪われるケースも増えています。

このようなことを起こさないためにも、動物を飼う前にきちんと最後まで面倒をみることができるかを確認し、責任と愛情をもって大事に飼ってあげましょう。



## あとがき

私たちの周りには家族や友達  
の他にも多くの人や動物たちが  
暮らしています。みんなが気持ち  
よく暮らすためには相手のこと  
を知り、何をすることが一番  
良いのかよく考えることが大切  
です。

相手を思いやる気持ちを持ち  
続けることで、より良い社会を  
つくっていきましょう。

編集

## 公益社団法人 東京都獣医師会杉並支部

ホームページ

(URL) <http://www.s-vet.com>

(イラスト協力 女子美術大学芸術学部

アート・デザイン表現学科

ヒーリング表現領域 渡部 紗実亜)

発行・監修

## 杉並区杉並保健所生活衛生課

〒167-0051 杉並区荻窪五丁目20-1  
(3391-1991)

平成28年11月発行

登録印刷物番号

28-0073

## 獣医師会会員 動物病院案内 (町名順)

川口動物病院	阿佐谷北 2-9-9	3339-4343
阿佐谷ペットクリニック	阿佐谷北 4-1-2	3330-3020
グリム動物病院	阿佐谷南 3-5-1	3393-2624
ちやふるペットクリニック	天沼 3-23-34	6240-6377
いぐさ動物病院	井草 1-31-16	3397-7115
たかぎ動物病院	井草 1-35-4	5382-1233
ひがしやま動物病院	和泉 2-33-22	3322-8338
さくら動物病院	今川 4-20-11-1F	3301-7800
ハナ動物病院	梅里 2-28-4-1F	5913-8241
パル動物病院	永福 3-51-13	5376-5344
天野動物病院	大宮 1-2-3	3325-6798
米川動物病院	荻窪 3-12-5	3398-1141
グラス動物病院	荻窪 5-4-9	3220-2717
荻窪ツイン動物病院	上荻 1-23-18	3220-1122
もりぞう動物病院	上荻 2-21-25-1F	6915-0035
エルムス動物医療センター	上高井戸 1-14-4	3304-4090
ダクタリ動物病院 久我山	久我山 3-7-27	3334-3536
久我山動物病院	久我山 5-33-20	3331-0960
オハナ動物病院	高門寺北 3-23-6	5364-0203
高門寺アニマルクリニック	高門寺南 2-14-14	3311-1014
広瀬獣医科病院	下井草 2-4-10	3394-0116
小金井家畜医院	下井草 3-32-10	3390-8794
東京動物医療センター	松庵 2-19-15	3331-3381
鈴木動物クリニック	善福寺 2-30-5	5382-8707
ミ・サ・キ・動物病院	高井戸東 2-25-8	5370-1013
浜田山かじわら動物病院	高井戸東 3-1-25	3290-1239
しんどうぶつびょういん	高井戸東 4-9-1	5336-3721
成田犬猫病院	成田東 3-2-3	3315-5300
小張獣医科病院	西荻北 2-13-3	3390-6025
ブルーミントン動物病院	西荻南 2-22-11	5941-9711
マスナガ動物病院	浜田山 4-11-12	5378-1014
ダクタリ阿佐ヶ谷動物病院	本天沼 2-3-5	3399-0878
塩田動物病院	南荻窪 1-19-14	3332-2310
なかむらペットクリニック	南荻窪 4-22-6-1F	5370-6070
みやまえ動物病院	宮前 3-9-1	5344-1677
エルム動物病院	桃井 1-26-20	3396-1207
D&C Physical Therapy	和田 3-60-10	3311-8888
安達動物病院	和田 3-60-11	3311-5678

R40

古紙配合率40%再生紙